

日本角膜学会 年次報告書

ANNUAL REPORT OF JAPAN CORNEA SOCIETY

PHOTO REPORT

角膜カンファランス2022 体験記

角膜カンファランス2023に
ようこそ

学術奨励賞受賞者
喜びのコメント



日本角膜学会 年次報告書

ANNUAL REPORT OF JAPAN CORNEA SOCIETY

Vol. 26



- 3… 理事長挨拶**
山田昌和 杏林大学
- 4… 角膜カンファランス (第46回日本角膜学会／第38回日本角膜移植学会)
2022を主催して**
小林 顕 金沢大学眼科 病院臨床准教授
- 5… 角膜カンファランス2022写真レポート**
- 9… 角膜カンファランス2023によろこ**
山田昌和 杏林大学
- 10… 角膜カンファランス過去開催一覧表／学術奨励賞受賞者一覧表**
- 13… 学術奨励賞受賞者喜びのコメント**
小野 喬 東京大
- 14… 内田賞・北野賞・眞鍋賞受賞1994～2022年度受賞者一覧表**
- 18… 内田賞・北野賞・眞鍋賞受賞者喜びのコメント**
小島美帆 京都府医大 (2022年度 内田賞)
鈴木孝典 東京歯大・市川 (2022年度 北野賞)
長野広実 京都第一赤十字病院 (2022年度 眞鍋賞)
- 21… 日本角膜学会 会則**
- 22… 理事会／評議員会議事録など**

理事長挨拶



杏林大学
山田昌和

角膜学会年次報告書Vol.26をお届けいたします。2021年より日本角膜学会の理事長を拝命しており、もうすぐ任期満了です。この1年、たくさんの会員の先生がたからご指導ご鞭撻を賜り、感謝しております。

2022年もまだコロナ禍は続きました。角膜カンファランス2022は2月10日～12日に石川県金沢市で小林 顕先生(金沢大学)を学会長として開催されました。蔓延防止措置期間中でもあり、現地の参加者は多くありませんでしたが、会場でもオンデマンドでもディスカッションが盛んで充実した内容であったと思います。5つの招待講演やシンポジウムのKeynote Lectureは著名な海外の先生がたの講演を聴く良い機会となり、角膜学会が目指す国際化を象徴するものでした。学会の白眉は眞鍋禮三名誉教授追悼シンポジウムでした。角膜カンファランスの産みの親であり、日本の角膜の臨床と研究の土台を作り上げ、優秀な人材を育んだ眞鍋先生の軌跡と功績を顧みる素晴らしいセッションでした。

臨床研究でも基礎研究でも多施設共同研究が当たり前になっており、特に疫学研究や診療ガイドライン作りには専門学会の役割が大きくなっています。角膜学会で現在、研究費を助成しているプロジェクトとしては、角膜AI研究とJapan Ocular Imaging Registry (JOI

Registry)、マイボーム腺機能不全の診療ガイドライン作り、水疱性角膜症の全国調査があります。いずれも重要性の高い課題ですが、幸いなことにそれぞれに素晴らしい成果が生まれてきています。角膜カンファランス2023ではこれらの研究の現状についてお話いただくセミナーを企画しています。臨床研究、多施設共同研究を角膜学会が主導し、推進することは学会としての使命でもあり、今後の大きな課題であると認識しています。

以上、2022年の角膜学会についてご報告しました。今年一年も理事や評議員の先生のご支援、ご尽力のおかげで何とか理事長を務めることができました。会員同士の仲の良さ、一体感が角膜学会の最大の長所ですので、これを生かして角膜学会が発展していくことを願っています。どうか皆さんも角膜をもっと好きになって、角膜好きの仲間を増やしていきましょう。

角膜カンファランス 2022

(第46回日本角膜学会／第38回日本角膜移植学会)
を主催して



金沢大学眼科学教室
病院臨床准教授
小林 顕

2022年2月10日～12日の3日間(オンデマンド配信:3月1日～21日)、石川県立音楽堂にて日本角膜カンファランス2022が開催されました。学会長として無事に終了することができ、ご協力いただいた先生方や、困難な状況のなか現地にご参加いただいた400名近くの先生方、ご視聴していただきました先生方に御礼申し上げます。学会参加登録者も、予想をはるかに超える1,174名となり、大変に多くの演題(178題)もいただくことができました。また、関連企業様からの15枠の共催セミナーを行うことができ、その他多くの御寄付や広告収入のおかげで、比較的余裕をもった学会運営を行うことができました。

一つ目のシンポジウム「角膜ジストロフィ研究と治療の最前線」では、Albert Jun教授による遺伝子治療についての基調講演が行われ、辻川元一教授、白井智彦教授、大家義則先生、西野翼先生らから、最先端の研究についてご発表がありました。また、二つ目のシンポジウム「Keratoplasty 2022」はすべて英語で行われ、Bennie Jeng教授、Nidhi Gupta教授らの基調講演に続き、林孝彦先生、門田遊教授、横川英明先生、島崎潤教授らが、最新の角膜移植について議論しました。さらに、Sadeer Hannush教授は角膜移植トリプル手術について、Scheffer Tseng教授は羊膜の基質について、Andrew Huang教授は角膜の神経支配について、Björn Bachmann教授はDMEKについて、

Charles McGhee教授は円錐角膜について、それぞれ素晴らしい講演をしていただきました。3日目はすべての講演を英語で行うEnglish sessionとしましたが、「国際学会の雰囲気を感じることができた」「角膜カンファランスの恒例にできないか？」との感想も寄せられ、嬉しく思っています。反響が大きかった眞鍋禮三名誉教授追悼シンポジウム「Back to the Basic, Look to the Future」では、西田幸二教授、木下茂教授、大橋裕一名誉教授、西田輝夫名誉教授、澤充名誉教授らにより、角膜カンファランスの生みの親である眞鍋先生の功績を振り返るとともに、若き角膜研究者への熱いメッセージが届けられ、私も大変感銘を受けました。なお、今年の学術奨励賞は東京大学の小野喬先生が受賞され、これまでの研究の成果について受賞講演が行われました。

学会後には、パイプオルガンコンサートや世良公則さんによるアコースティックライブコンサートが開催され、素晴らしいパフォーマンスを楽しんでいただけたことと存じます。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださいました学会の理事、評議員、会員の皆様方に心より感謝申し上げます。

角膜カンファランス2022 写真レポート



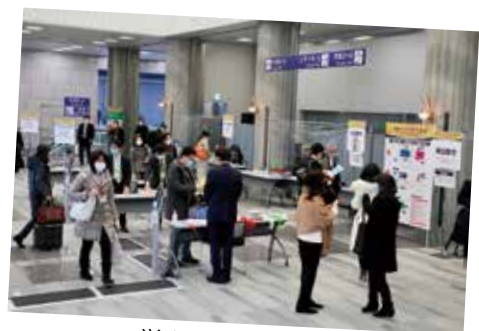
角膜カンファランス2022ポスター



金沢駅鼓門と学会タペストリ



石川県立音楽堂入り口正面看板



学会入り口受付
体温チェックとマスク配布



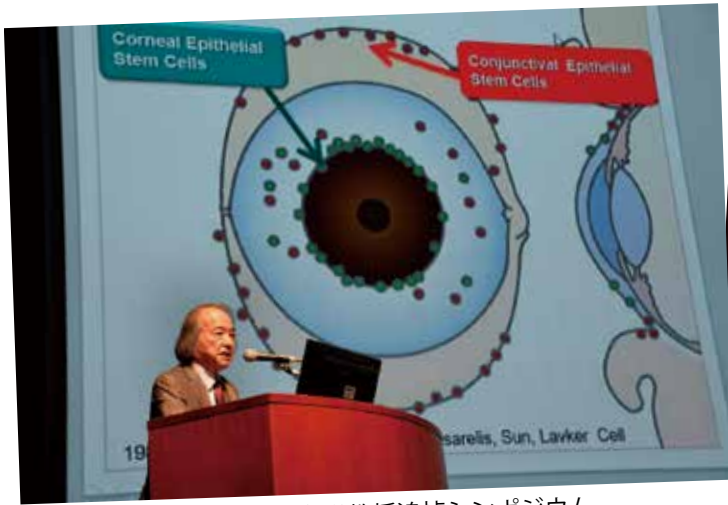
器械展示場



開会式挨拶



学術奨励賞受賞講演
(東京大学 小野喬先生)



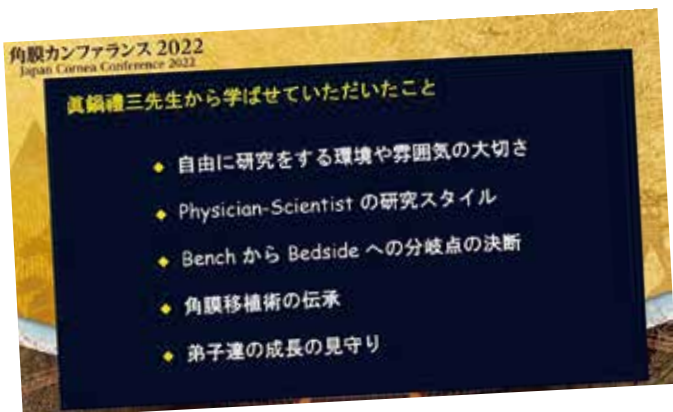
眞鍋禮三名誉教授追悼シンポジウム



優秀ポスター賞発表



眞鍋禮三名誉教授追悼シンポジウム



角膜カンファランス2022写真レポート



討論風景



シンポジウム 1 (角膜ジストロフィ)



English session 座長



シンポジウム 2 (Keratoplasty2022)



海外招待講演





パイプオルガンコンサートポスター



パイプオルガンコンサート



世良公則アコースティックライブコンサート



世良公則アコースティックライブコンサートポスター

角膜カンファランス 2023にようこそ



杏林大学眼科学教室
山田 昌和

このたび角膜カンファランス2023(第47回日本角膜学会総会、第39回日本角膜移植学会)を担当いたします。貴重な機会を与えてくださいました会員の先生がた、関係各位に感謝申し上げます。学会の期日は2023年2月9日(木)～11日(土・祝日)、場所は横浜みなとみらいのパシフィコ横浜です。

眼科領域で最初にコロナ禍の影響を受けた学会は角膜カンファランスでした。3年前に東京で予定されていた総会は前日に現地開催が急遽中止となり、後日オンデマンド開催となりました。2年前の松山で予定された総会もオンデマンド開催となり、前回の金沢での総会はハイブリッド開催でした。ハイブリッドとはいえ、蔓延防止措置期間中でもあり、現地の参加者は多くありませんでした。

コロナ禍によって社会は大きく変容しました。外出や旅行の機会が減少し、テレワークやオンライン授業が当たり前になりました。大人数での会議、会食も制限され、学会もウェブ開催が普通になりました。ウェブ開催は遠隔地からでも距離や時間の制約なしに参加できるメリットもあります。しかし、学会の醍醐味はやはりface to faceのディスカッションにあります。角膜カンファランスは若い医師もベテランの医師も関係なく、オープンに討論できる自由な雰囲気最大の長所です。発表の後にオーソリティの先生から質問を受けたり、(たまに)誉められたりすると研究を続けようという動機、励みになります。ただしこの3年、角膜カンファランスもオンライン、ハイブリッド開催になってしまい、その美点が失われそうになっています。音声付きスライドを作っても壁打ちテニスみたいで張り合いがないと感じている先生がたも少なくないのではないのでしょうか。

学会は現地参加を基本とさせていただきました。不自由だ、融通がきかないという声も聞こえてきそうですが、敢えていえば学会はもともと不自由なものです。会場に行って決められた時間に合わせなければ、講演を聴いてその場の雰囲気を感じることができません。今学会のスローガン、Back to the Basics to Meet New Challengesには、もう一度角膜カンファランスの原点者の原点に帰って、角膜専門医、研究者の意見交換の場にしたいという願いが込められています。

本学会が開催される時期には、皆様が安心して現地参加できる状況になっていることを心から願っています。角膜カンファランスの原点である活発な討論、交流を通じて、新しい研究のアイデア、臨床のアイデアが育まれるようなら望外の喜びというほかありません。学会開催の地は横浜みなとみらいであり、ちょっとした旅行気分もグルメ探求も楽しむことができそうです。角膜カンファランス2023を充実したものにしたいと考えておりますので、どうか宜しくお願い申し上げます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

角膜カンファランス過去開催一覧表

回数	日時	場所		世話係	演題数
1	1977年2月26日	霞が関ビル 33F 東海大学校友会館	東京	眞鍋禮三	16
2	1978年2月25日	関電ビル 2F 関電会館	大阪	眞鍋禮三	10
3	1979年2月17日	霞が関ビル 33F 東海大学校友会館	東京	眞鍋禮三	15
4	1980年2月24日	大阪中之島センタービルロイヤル NCB 会館 3F 会議室 3号	大阪	眞鍋禮三	21
5	1981年3月1日	霞ヶ関ビル33F 東海大学校友会館	東京	眞鍋禮三	28
6	1982年5月20日	国立京都国際会館	京都	眞鍋禮三	35
7	1983年5月19日	国立京都国際会館	京都	眞鍋禮三	35
8	1984年2月26日	イカリビル 2F 大ホール	大阪	眞鍋禮三	40
9	1985年2月16日、17日	日光金谷ホテル	栃木	大原國俊	56
10	1986年2月28日、3月1日	八幡平リゾートホテル	岩手	田澤 豊	57
11	1987年2月13日、14日	大磯プリンスホテルプリンスホール	神奈川	金井 淳	55
12	1988年2月19日、20日	宝塚ホテル	兵庫	眞鍋禮三	78
13	1989年2月24日、25日	北海道大学学術交流会館	札幌	松田英彦	84
14	1990年2月1日、2日	東京ベイヒルトンインターナショナルホテル	東京 千葉	北野周作 崎元卓	109
15	1991年2月8日、9日	筑波大学大学会館	茨城	本村幸子	114
16	1992年1月31日、2月1日、2日	パシフィコ横浜	神奈川	増田寛次郎	139
17	1993年1月2日、23日、24日	白浜・ホテルシーモア	和歌山	大鳥利文	157
18	1994年2月18日、19日、20日	すみだリバーサイドホテル浅草ビューホテル	東京	宮永嘉隆	188
19	1995年2月9日、10日、11日	都ホテル	京都	木下茂	180
20	1996年2月16日、17日、18日	恵比寿ガーデンプレイス内ザガーデンホール	東京	小口芳久	187
21	1997年2月7日、8日、9日	愛媛県県民文化会館	愛媛	大橋裕一	183
22	1998年2月13日、14日、15日	賢島 宝生苑	三重	杉田潤太郎	204
23	1999年2月11日、12日、13日	宇部全日空ホテル	山口	西田輝夫	175

回数	日時	場所	世話係	演題数	
24	2000年2月17日、18日、19日	東京ベイホテル東急	千葉	坪田一男	184
25	2001年2月8日、9日、10日	りんくう国際会議場全日空ゲートタワーホテル大阪	大阪	下村嘉一	202
26	2002年2月21日、22日、23日	パシフィコ横浜	神奈川	澤 充	208
27	2003年2月20日、21日、22日	軽井沢プリンスホテル西館	長野	村松隆次	200
28	2004年2月19日、20日、21日	米子コンベンションセンター(ビッグシップ)	鳥取	井上幸次	237
29	2005年2月17日、18日、19日	徳島プリンスホテル	徳島	塩田 洋	201
30	2006年2月9日、10日、11日	東京ビッグサイトTFT ホール	東京	大鹿哲郎	200
31	2007年2月9日、10日、11日	ワールドコンベンションセンター	宮崎	宮田和典	220
32	2008年2月28日、29日、3月1日	東京ベイホテル東急	東京	天野史郎	221
33	2009年2月19日、20日、21日	ザ・リッツ・カールトン大阪	大阪	前田直之	216
34	2010年2月11日、12日、13日	仙台国際センター	仙台	西田幸二	198
35	2011年2月17日、18日、19日	品川プリンスホテル	東京	高橋 浩	200
36	2012年2月23日、24日、25日	ホテルニューオータニ	東京	山口達夫	214
37	2013年2月14日、15日、16日	和歌山県立町立総合体育館・白浜健康館	和歌山	雑賀司珠也	229
38	2014年1月30日、31日、2月1日	沖縄コンベンションセンター	沖縄	島崎 潤	264
39	2015年2月11日、12日、13日	高知市文化プラザかるぼーと	高知	福島敦樹	227
40	2016年2月18日、19日、20日	軽井沢プリンスホテルウエスト	長野	清水公也	232
41	2017年2月16日、17日、18日	アクロス福岡	福岡	内尾英一	225
42	2018年2月15日、16日、17日	グランドプリンスホテル広島	広島	近間泰一郎	231
43	2019年2月7日、8日、9日	ウェスティン都ホテル京都	京都	外園千恵	232
44	2020年4月15日～5月10日	Web		山上 聡	182(138)
45	2021年2月11日～2月13日 2021年2月28日～3月11日	LIVE配信 オンデマンド配信		白石 敦	124
46	2022年2月10日～12日 2022年3月1日～14日	石川県立音楽堂 オンデマンド配信	金沢	小林 顕	178

学術奨励賞受賞者一覧表

年度	回数	受賞者	所属
2003年	第1回	榛村重人	東京歯科大
		中村隆宏	京都府立医大
2004年	第2回	堀 純子	日本医大
		川崎 諭	京都府立医大
2005年	第3回	加治優一	筑波大臨床医学系
		小泉範子	京都府立医大
2006年	第4回	川北哲也	東京歯科大市川総合病院
		福田 憲	山口大
2007年	第5回	山田潤	明治鍼灸大
		小林 顕	金沢大
2008年	第6回	臼井智彦	東京大
		平岡孝浩	筑波大臨床医学系
		堀 裕一	大阪大
2009年	第7回	有田玲子	東京大、伊藤医院
		井上智之	大阪大
2010年	第8回	川島素子	慶應大
		森重直行	山口大
2011年	第9回	奥村直毅	京都府医大
		柳井亮二	山口大
2012年	第10回	羽藤 晋	慶應大
		中司美奈	京都府医大
2013年	第11回	崎元 暢	日本大
		鈴木 崇	愛媛大
2014年	第12回	高 静花	大阪大
		平山雅敏	慶應大
2015年	第13回	大家義則	大阪大
		山口剛史	東京歯科大
2016年	第14回	北澤耕司	京都府医大
		林 竜平	大阪大
2017年	第15回	猪俣武範	順天大
		内野裕一	慶應大
2018年	第16回	難波広幸	山形大
2019年	第17回	内野美樹	慶應大
		豊野哲也	東京大
2020年	第18回	相馬剛至	大阪大
		林 孝彦	横浜南共済病院
		福岡詩麻	東京大
2021年	第19回	小野 喬	東京大

小野 喬 (東京大学)

前眼部疾患と手術後における角膜の 長期的な構造変化



この度は、第19回日本角膜学会学術奨励賞の栄誉を賜り、誠にありがとうございます。本会は最先端の分子生物学から臨床研究に至る角膜に関する医学を包括する学会であり、このような素晴らしい学会においてご評価いただき、大変光栄に存じます。角膜カンファランス2022学会長の小林 顕先生、学術奨励賞選考委員の先生方をはじめ、関係されます諸先生方に心より感謝申し上げます。また、受賞にかかわる研究を御指導いただきました、東京大学眼科学教室の相原 一先生、宮井 尊史先生、宮田眼科病院の宮田和典先生、井上眼科病院の天野史郎先生、日本大学眼科学分野の山上 聡先生、国際医療福祉大学眼科学教室の臼井智彦先生に、この場を借りて御礼申し上げます。

私が角膜研究を志した契機は、東京大学の学部生の時です。眼科学の講義で興味をもった私は、宮田先生と直接お話しするチャンスを得て、眼科の魅力と角膜の恒常性維持機構の奥深さを教えていただきました。宮井先生にお世話になり2014年に東京大学眼科に入局し、山上先生と臼井先生に角膜の透明性を維持するためのトランスレショナルリサーチの重要性をお教えいただきました。とくに、山上先生から「本当に大事な教科書の1行を書くために人生をかけて研究する」と伺い、そ

の高尚さに心打たれたことは今も覚えています。

2015年からは宮田眼科病院に勤務し、外来診療や手術に従事して患者さんの長期的なフォローアップを自ら行うなかで、私は術後に眼の状態がいつ落ち着くのかを具体的に知りたいと考えました。そこで、宮田先生、子島良平先生、森 洋斉先生のご指導のもとで、手術後に角膜の構造が安定化する時期や長期予後について疾患横断的に検討を行いました。東京大学大学院進学後も、宮井先生のご指導のもとでデータの集積と解析を進めました。すなわち、角膜内皮細胞の加齢性変化・レーザー虹彩光凝固術や角膜移植後の変化、角膜実質に対するクロスリンキングや屈折矯正手術後の長期的変化、そして眼瞼下

垂手術・翼状片手術・角膜移植後の長期的な角膜形状変化などについて検証いたしました。一連の研究は、いずれも宮田先生の「Patient Based Medicine」の考え方に基づき、実臨床の知見を次世代の眼科診療に活用するために行ったものです。前眼部疾患とその手術後における予後をより正確に推測し、洗練された治療プロトコルの設定を可能にすることを目指しております。

多くの症例を診る機会と自由に研究する環境を与えていただき、宮田眼科病院と東京大学眼科の諸先生方には感謝の念に堪えません。今後も日本角膜学会の発展に貢献できるよう、研究に一層邁進する所存です。ご指導ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



東京大学眼科集合写真2021年



内田賞・北野賞・眞鍋賞受賞 1994～2022年度受賞者一覧表

★1994年(第18回角膜カンファレンス・第10回日本角膜移植学会)

内田賞	西川都子(近畿大)	インターロイキンによる実験的角膜炎	
北野賞	細見雅美(神戸海星病院)	角膜潰瘍に対するヒアルロン酸点眼薬の効果	
眞鍋賞	木佐貫操(神戸大)	Werner症候群の角膜における細胞増殖能についての組織学的検討	

★1995年(第19回角膜カンファレンス・第11回日本角膜移植学会)

内田賞	近藤順子(眼科杉田病院)	強角膜片保存中の内皮細胞検査(アイバンク用スペキュラーマイクロスコープ)	角膜学会誌第1巻184頁
北野賞	吉田裕司(東京工芸大)	生体眼での複屈折効果(その1)-角膜形状応用力状態の計測-	角膜学会誌第1巻187頁
眞鍋賞	長田さやか(金沢大)	アトピー性皮膚炎患者の角膜形状の検討	角膜学会誌第1巻189頁

★1996年(第20回角膜カンファレンス・第12回日本角膜移植学会)

内田賞	吉野真未(慶應大)	骨髄移植に伴うドライアイ	眼紀第48巻453-455頁、 角膜学会誌第2巻158頁
北野賞	渡辺牧夫(高知医大)	約2年間のソフトコンタクト連続装用による細菌性角膜潰瘍の一例	眼紀47巻1054-1058頁、 角膜学会誌第2巻75頁
眞鍋賞	新妻卓也(女子医大第二)	PRK後の不可逆性上皮混濁の組織変化	眼紀第47巻1464-1467頁、 角膜学会誌第2巻56頁

★1997年(第21回角膜カンファレンス・第13回日本角膜移植学会)

内田賞	光本拓也(佐賀医大)	角膜細胞の新しい単離培養法(短冊法)の試み	角膜学会誌第3巻137頁
北野賞	木村内子(東芝病院)	幼児角膜を用いた全層角膜移植の長期予後ラット全層角膜移植モデルにおけるドナー	角膜学会誌第3巻139頁
眞鍋賞	皆本敦(広島大)	角膜に対する紫外線照射の効果	角膜学会誌第3巻146頁

★1998年(第22回角膜カンファレンス・第14回日本角膜移植学会)

内田賞	内田幸男選考委員ご逝去につき今回は北野賞・眞鍋賞のみとし、各2名ずつ選ぶことになった。		
北野賞	①渡辺仁(大阪大)	ケラトエピテリン関連角膜変性症の遺伝子異常の違いによる臨床所見の相違	Ophthalmology、 角膜学会誌第4巻113頁
	②光本拓也(佐賀医大)	角膜内皮の修復;細胞外基質と成長因子を関連させた内皮修復の解析法	角膜学会誌第4巻115頁
眞鍋賞	①足立和加子(京都府医大)	ヒト角膜上皮に特異的な新規カテプシンのクローニング	角膜学会誌第4巻113頁
	②佐藤敦子(日本大)	自動角膜厚測定装置(SP-2000P)の臨床的評価	眼紀第50巻18-21頁

★1999年(第23回角膜カンファレンス・第15回日本角膜移植学会)

内田賞	新田卓也(北海道大)	細菌アレルギーの関与する慢性角結膜炎に対するテトラサイクリン内服療法	角膜学会誌第5巻105頁
北野賞	川崎諭(京都府医大)	眼表面疾患慢性期における結膜潤滑細胞	角膜学会誌第5巻102頁
眞鍋賞	平野耕治(名古屋大)	光学的干渉断層計(OCT)の角膜疾患診断への応用について	角膜学会誌第5巻111頁

★2000年(第24回角膜カンファランス・第16回日本角膜移植学会)

内田賞	村戸ドール(神戸海星病院)	エキシマレーザー治療の角膜切除術後の眼表面所見の原疾患別検討	角膜学会誌第6巻98頁
北野賞	弓狩純子(女子医大)	アトピー性角膜炎の角膜上皮障害における好酸球とエオキタシンの関与	角膜学会誌第6巻80頁
眞鍋賞	八木明美(静岡県アイバンク)	静岡県アイバンクの幹旋に関する統計調査(1982-1999)	角膜学会誌第5巻111頁

★2001年(第25回角膜カンファランス・第17回日本角膜移植学会)

内田賞	Zheng Xiaodong(愛媛大)	アカントアメーバはヒト角膜上皮細胞アポトーシスを誘導する	角膜学会誌第7巻123頁
北野賞	月山純子(近畿大)	角膜上皮創傷治癒におけるプロスタグランジンの作用機序について	角膜学会誌第7巻123頁
眞鍋賞	加賀谷文絵(東京大)	ヒト羊膜上皮培養上清は角膜移植後の血管新生を抑制する	角膜学会誌第7巻128頁

★2002年(第26回角膜カンファランス・第18回日本角膜移植学会)

内田賞	中川裕子(徳島診療所)	眼圧上昇を伴う重篤な角膜ブドウ膜炎を呈したムンプス	角膜炎の1例角膜学会誌第8巻35頁
北野賞	尾藤洋子(京都府医大)	結膜弛緩症の多数例に対する涙液メニスカス再建術の検討	角膜学会誌第8巻80頁
眞鍋賞	藤田聡(東京医大)	レシピエント角膜上皮を温存した角膜移植術	角膜学会誌第8巻87頁

★2003年(第27回角膜カンファランス・第19回日本角膜移植学会)

内田賞	大宮勝美(羽曳野病院)	両眼性・多発性の角膜上皮嚢胞を示した1症例	角膜学会誌第9巻87頁
北野賞	大野健治(国立東京医療センター)	病状説明でのフルオレセイン・ブルーフリーシステムの有用性	角膜学会誌第9巻71頁
眞鍋賞	遠藤健一(京都府医大)	羊膜上皮基底膜におけるIV型コラーゲン $\alpha 5$ 鎖の発現-角膜上皮基底膜との類似性-	角膜学会誌第9巻90頁

★2004年(第28回角膜カンファランス・第20回日本角膜移植学会)

内田賞	茂田今日子(銚子市立総合病院)	角結膜疾患患者における涙液中ケモカインの検討	角膜学会誌第10巻158頁
北野賞	酒井理恵子(自治医大)	ヒト角膜内皮細胞に高発現するCESP-1の特異抗体作製と細胞内局在	角膜学会誌第10巻152頁
眞鍋賞	前田政徳(近畿大)	結膜弁被覆を併用した人工角膜手術	角膜学会誌第10巻170頁

★2005年(第29回角膜カンファランス・第21回日本角膜移植学会)

内田賞	鴨居瑞加(立川共済病院)	涙液分泌低下型ドライアイにおける涙液蒸発率と涙液油層状態	角膜学会誌第11巻78頁
北野賞	板橋幹城(近畿大)	WGCV, GVACVのヘルペス性角膜上皮炎への効果	角膜学会誌第11巻87頁
眞鍋賞	渡邊和誉(兵庫アイバンク)	献眼情報より臓器および組織提供に結びついた1例	

★2006年(第30回角膜カンファランス・第22回日本角膜移植学会)

内田賞	張巍(愛媛大)	Frameshift Mutationによるアシクロビル耐性角膜ヘルペスの1例	角膜学会誌第12巻109頁
北野賞	寺井典子(京都府医大)	マウス角膜の分化・成熟におけるケラチン12の発現	角膜学会誌第12巻97頁
眞鍋賞	諸星計(鳥取大)	CCR5・CXCR3欠損マウスにおける角膜移植後拒絶反応の検討	角膜学会誌第12巻104頁

★2007年(第31回角膜カンファレンス・第23回日本角膜移植学会)

内田賞	林竜平(東北大)	角膜輪部上皮におけるN-cadherin発現細胞の解析	
北野賞	林孝彦(横浜市大)	マウス水疱性角膜症眼に対するアロ角膜内皮細胞移植とアロ全層角膜移植の免疫反応	
眞鍋賞	石丸慎平(獨協医大)	深部表層角膜移植【DLKP】術にて摘出された角膜の組織学的検討	

★2008年(第32回角膜カンファレンス・第24回日本角膜移植学会)

内田賞	佐藤エンリケ アダン(慶應大)	レーザー生体共焦点顕微鏡によるシェーグレン症候群 症例の涙腺炎症状態の観察	
北野賞	子島良平(宮田眼科病院)	アカントアメーバに対する薬剤感受性試験の検討	
眞鍋賞	入江真理(富山県アイバンク)	富山県アイバンクの15年の活動報告	

★2009年(第33回角膜カンファレンス・第25回日本角膜移植学会)

内田賞	三村達哉(東京大)	角膜血管新生におけるin vitroでのMT1-MMPのDecorin分解	
北野賞	長谷川美恵子(大手前病院)	フルオロキノロン耐性を示した感染性角膜潰瘍の3例	
眞鍋賞	横川英明(金沢大)	Busin グライド使用に伴う内皮障害評価ー新鮮ヒト角膜を用いた実験ー	

★2010年(第34回角膜カンファレンス・第26回日本角膜移植学会)

内田賞	山田直之(山口大)	フィブロネクチン由来ペプチド PHSRN 点眼が著効した神経麻痺性角膜症の1例	
北野賞	竹田一徳(京都府医大)	急性期眼表面疾患に対する自己培養口腔粘膜上皮移植術の臨床成績	
眞鍋賞	田中寛(京都府医大)	眼表面疾患患者のMRSA 細菌に関する検討	

★2011年角膜カンファレンス(第35回日本角膜学会・第27回日本角膜移植学会)

内田賞	吉田悟(慶應大)	角膜実質の再生医療に向けた神経堤幹細胞のiPS 細胞からの誘導	
北野賞	松永透(順天大)	リン酸基含有ハイドロゲルをデバイスとした前眼部へのTACSTD2 遺伝子導入	
眞鍋賞	中村孝夫(大手前病院)	無水晶体眼水疱性角膜症に対する角膜内皮移植	

★2012年角膜カンファレンス(第36回日本角膜学会・第28回日本角膜移植学会)

内田賞	水戸毅(愛媛大)	アカントアメーバへのphotodynamic therapy (PDT):抗アメーバ薬との併用効果の検討	
北野賞	小林剛(愛媛大)	マウス表皮細胞から形質転換した角膜上皮様細胞の免疫組織学的検討	
眞鍋賞	中川紘子(京都府医大)	同ドナーから提供をうけた2眼を使用した角膜内皮移植での角膜内皮細胞密度の経過	

★2013年角膜カンファレンス(第37回日本角膜学会・第29回日本角膜移植学会)

内田賞	伊藤吉将(近畿大・薬)	薬物ナノ粒子分散液の調製と点眼製剤としての応用性:ナノ粒子分散液の角膜傷害性評価	
北野賞	松永透(順天大)	膠様滴状角膜ジストロフィ角膜上皮細胞へのTACSTD2遺伝子導入・機能発現	
眞鍋賞	稲垣絵海(慶應大)	マウス角膜実質幹細胞の細胞移植	

★2014年角膜カンファレンス(第38回日本角膜学会・第30回日本角膜移植学会)

内田賞	近間泰一郎(広島大)	非接触高倍対物レンズを用いたレーザー生体共焦点顕微鏡による病原微生物の観察	
北野賞	森重直行(山口大)	角膜実質コラーゲン線維束構造の解剖学的特徴	
眞鍋賞	島伸行(東京大)	角膜の曲率適合型培養ヒト角膜内皮細胞シートの有効性・安全性の評価	

★2015年角膜カンファランス(第39回日本角膜学会・第31回日本角膜移植学会)

内田賞	高橋広樹(東京医科大学)	角膜内ランゲルハンス細胞の動態	
北野賞	北澤耕司(京都府立医科大学/京都大学iPS細胞研究所)	CRISPR/Cas9を用いてPAX6をノックアウトしたヒト角膜上皮細胞の検討	
眞鍋賞	稲富 勉(京都府立医科大学)	Descemet membrane endothelial keratoplastyにおける角膜厚と視力推移の検討	

★2016年角膜カンファランス(第40回日本角膜学会・第32回日本角膜移植学会)

内田賞	田島一樹(慶應大外科・東京医大)	病原遺伝子の網羅的検索による多剤耐性緑膿菌角膜炎の病原性解析	
北野賞	稲垣絵海(慶應大)	ヒト皮膚幹細胞由来の誘導角膜内皮細胞におけるポンプ機能解析	
眞鍋賞	石居信人(旭川医大)	角膜内皮移植の予後に関連する因子	

★2017年角膜カンファランス(第41回日本角膜学会・第33回日本角膜移植学会)

内田賞	石川 幸(大阪大)	ヒトiPS細胞由来角膜上皮細胞の長期培養	
北野賞	北本昂大(東京大)	顆粒状角膜変性症に対するCRISPR/Cas9を用いた遺伝子編集	
眞鍋賞	柿栖康二(東京歯大)	海外ドナー角膜の術前温度管理が角膜内皮移植術後の内皮細胞密度に与える影響	

★2018年角膜カンファランス(第42回日本角膜学会・第34回日本角膜移植学会)

内田賞	成松明知(東京医大)	角膜緑膿菌感染におけるリンパ管の役割の検討	
北野賞	難波広幸(山形大)	乱視ベクトル解析と10年間の経時変化:山形県コホート研究(舟形町研究)	
眞鍋賞	福井佑弥(同志社大)	ブタ脱細胞化角膜シートのサンドイッチ移植法による角膜補強の有用性の検討	

★2019年角膜カンファランス(第43回日本角膜学会・第35回日本角膜移植学会)

内田賞	後藤田哲史(大森日赤)	東邦大学医療センター大森病院における非外傷性角膜穿孔の原因と治療についての検討	
北野賞	富田大輔(東京歯大・市川)	水疱性角膜症における涙液と前房水のサイトカインの関連性	
眞鍋賞	高原彩加(舞鶴日赤)	DSAEK後に再移植を必要とした症例における角膜内皮細胞減少に関わる因子の検討	

★2020年角膜カンファランス(第44回日本角膜学会・第36回日本角膜移植学会)

内田賞	Yunialthy Dwia Pertiwi(広島大)	In vivo effectiveness TONS504 --PACT on <i>Acanthamoeba</i> keratitis	
北野賞	宮島大河(獨協医大)	Role of estrogen in FECD	
眞鍋賞	山口剛史(東京歯大・市川)	虹彩損傷を伴う角膜内皮細胞障害の動物モデル	

★2021年角膜カンファランス(第45回日本角膜学会・第37回日本角膜移植学会)

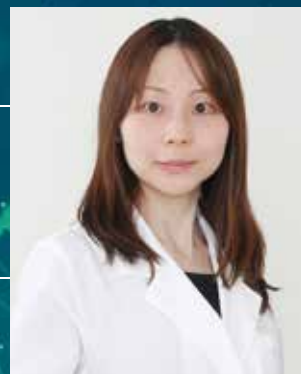
内田賞	井上英紀(愛媛大)	<i>Moraxella</i> 属による角膜炎の菌種と病型の検討	
北野賞	平山雅敏(東京歯大・市川)	角膜上皮細胞における涙液エクソソームの生理学的機能の解析	
眞鍋賞	宍道紘一郎(広島大)	光感受性物質 TONS504とメチレンブルーの光線力学的抗微生物効果の比較	

★2022年角膜カンファランス(第46回日本角膜学会・第38回日本角膜移植学会)

内田賞	小島美帆(京都府医大)	Stevens-Johnson症候群/中毒性表皮壊死症における眼後遺症割合の変化とその要因	
北野賞	鈴木孝典(東京歯大・市川)	Fuchs角膜内皮ジストロフィの前眼部OCTのdensitometryによる評価	
眞鍋賞	長野広実(京都府医大/国立長寿医療研究センター)	Stevens-Johnson症候群の眼瞼異常に対する手術治療	

小島美帆 (京都府立医科大学眼科学教室)

2022年度 内田賞を受賞して



この度、2022年角膜カンファレンス(第46回日本角膜学会・第38回日本角膜移植学会)において内田賞を賜りました。選考委員の先生方、ならびに御指導下さった京都府立医科大学眼科学教室の外園千恵教授、本研究にご協力下さった全国の眼科施設の先生方に厚く御礼申し上げます。

私は、「Stevens-Johnson 症候群 / 中毒性表皮壊死症における眼後遺症割合の変化とその要因」の演題で、Stevens-Johnson 症候群 (SJS) / 中毒性表皮壊死症 (TEN) の症例を全国疫学調査結果として発表させていただきました。この調査は、2016年～2018年の3年間に新規発症した SJS/TEN の症例を対象に、発症背景や初診時、最悪化時、最終受診時の眼所見、治療、転帰、後遺症について後ろ向きに検討したものです。対象となった全国160施設の眼科に調査を依頼させていただき、このうち99施設から365例の貴重な症例報告書をいただきました。お返事のない施設に度々催促のようなお手紙をお送りしたり、症例報告書の記載内容について、書面やメール、時には電話で、しかも明らかに診療時間内と思われる忙しい

時間に問い合わせるといふ、今思えば厚かましいことこの上ない無茶なお願いを繰り返し、調査を進めてきました。ご協力下さった先生方には感謝の言葉もありません。

2016年～2018年の症例を解析するなかで SJS/TEN の急性期眼重症度は全身重症度と有意に相関があり、眼後遺症に発症時年齢、急性期の眼重症度、被疑薬(総合感冒薬)が関与することが明らかになりました。

我々は、実際の臨床の現場において重篤な眼後遺症が減ってきているという印象をもっていたのですが、本調査の結果、具体的な眼後遺症割合の変化およびその要因を示すことができました。これは、2005年～2007年に新規発症した症例を対象に行った全国調査の結果と比較することでわかったことですが、視力障害やドライアイなどの眼後遺症の割合が39%から14%へ、約1/3に減少しており、その背景には3病日以内の全身治療開始例の増加およびステロイドパルス施行例の増加があることが明らかになりました。ステロイドパルスの有効性については、とくに海外では全身副作用への懸念からなかなか受け入れられてきませんでした



医局送別会のときの写真
左から小島、中央が今回眞鍋賞を受賞された長野広美先生です。

が、本学では約20年前から提唱してきたことで、今回データとして示せたことはとても意義があると考えています。

本調査にかかわるなかで、臨床研究の進め方やデータの扱いについて学ぶことができ、貴重な経験をさせていただきました。この受賞を励みに眼科医として今後も努力してまいりたいと思います。この度は誠にありがとうございました。

鈴木孝典 (東京歯科大学市川総合病院)

2022年度 北野賞を受賞して



この度北野賞という素晴らしい賞を受賞させていただきました。関係の皆様にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

角膜移植の歴史は黎明期の全層角膜移植から、技術の進歩に伴い現在は角膜内皮移植などのパーツ移植が行われています。なかでも代表的な角膜内皮疾患であるフックス角膜内皮ジストロフィは角膜内皮移植が行われることが多く、今日では多くの患者さんが苦しむ疾患として日夜研究が進んでいる疾患です。

フックス角膜内皮ジストロフィに対する病期の評価として、これまで多くの評価方法が提唱されてきました。その多くは細隙灯顕微鏡を使用した主観的な分類法で、検者が直接角膜内皮面に付着している guttae を評価する方法が採られています。この評価方法の問題点としては、検者によって結果に差が出ることや分類が段階的になることが挙げられます。とくに検者によって結果に差が出る点は、その他多くの主観的評価方法の問題点であり、他覚的なバイオマーカによる評価法が切望されてきました。

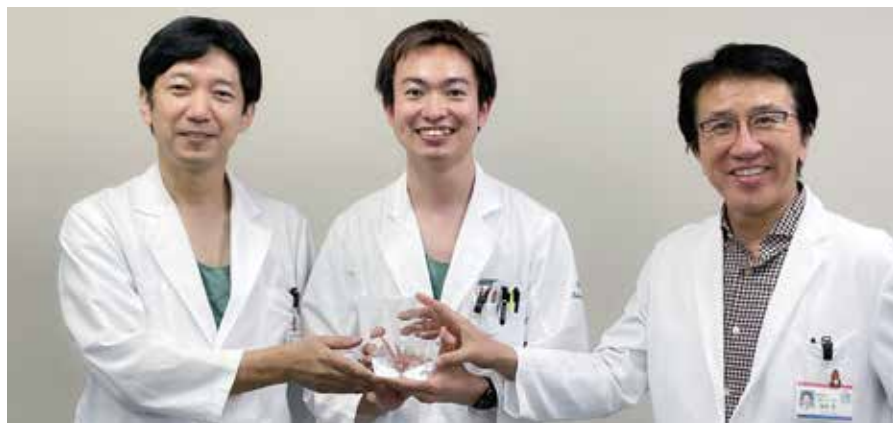
角膜を評価するためのツールとして、今日では前眼部光干渉断層計が使用されるケースが増えてきました。これまでのシャインブルーク画像を用

いた評価方法と異なり、角膜内皮層においても詳細な評価を可能にしたツールです。本研究は前眼部光干渉断層計にて測定したデンシトメトリーの三次元積算値を用いて、guttae を他覚的かつ定量的に評価を試みる研究です。

角膜内皮層と定義した部分において、フックス角膜内皮ジストロフィ群と正常群を比較し有意差を認めたと今回の研究結果につきましては、私達研究メンバーも驚いているところです。また、スペキュラマイクロスコープにて撮影した角膜内皮細胞に対し、guttae が占めている割合をもとに分類した重症度分類においても同様に最重症群とその他との間に有意差を認めました。ここで、正常群と軽症群を細かく識別することはできないかと実質の個体差による影響を除

外するために内皮層のデンシトメトリー三次元積算値を実質層のもので除した値を新たに定義し、同様に比較検討を行いました。すると興味深いことに今回はフックス角膜内皮ジストロフィ群と正常群との間に有意差を認めたのみならず、正常群と軽症群をも区別することが可能であるという結果が示されました。

本研究の結果は今後のフックス角膜内皮ジストロフィに対する診療に対する新たな他覚的バイオマーカとなる可能性を提唱するものです。今後実臨床へ応用できるよう、さらに研究を前へ推し進めていくことを考えております。末筆になりますが、改めましてこの度北野賞を受賞させていただきましたことを嬉しく思います。関係の皆様には厚く御礼申し上げます。



左から山口剛史准教授、鈴木、島崎 潤教授

長野広実 (京都第一赤十字病院)



2022年度 眞鍋賞を受賞して

この度、角膜カンファランス2022において、眞鍋賞を受賞させていただきました。大変光栄に思うと同時に身の引き締まる思いです。審査していただきました選考委員の先生方、また日頃からご指導いただいております外園千恵教授、木下 茂教授をはじめとする教室の先生方に厚く御礼を申し上げます。

今回、「Stevens-Johnson 症候群の眼瞼異常に対する手術治療」という演題の臨床研究を報告させていただきました。Stevens-Johnson 症候群(SJS)は高度の視力障害とドライアイを後遺症としますが、眼瞼についても、睫毛乱生、睫毛内反、後葉拘縮、眼瞼下垂等、様々な合併症を来す疾患です。

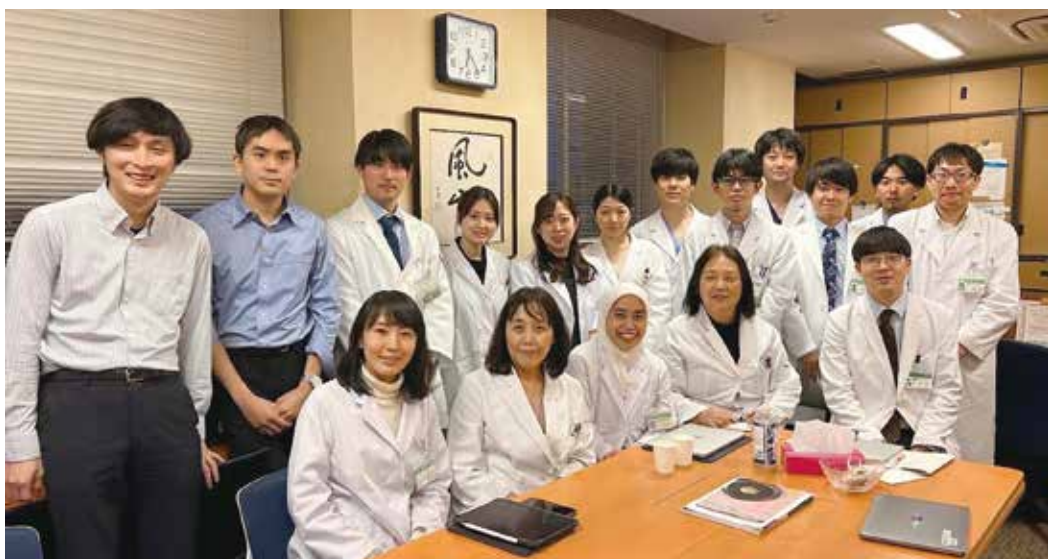
SJSは一般的にまれな疾患ではありますが、京都府立医科大学(当院)ではSJSの専門外来もあり、眼形成グループと連携してSJS患者の眼瞼手術もよく行っています。過去にSJSにおける眼瞼手術についての報告は少なく、当院でのデータベースをもとに、SJSに伴う眼瞼異常の特徴と、眼瞼異常に対する手術治療について検討しました。そ

の結果、SJSは睫毛に関する眼瞼異常、とくに睫毛乱生や睫毛内反が多く、睫毛ブロック切除、Lid splitting、Hotzといった術式が頻回に施行されていました。また、睫毛乱生が重篤な症例では、初回術式としてLid splittingを選択することで、再手術を減らせる可能性が示唆されました。難治性で再手術が必要な症例も多くみられ、病態や重症度に合わせた術式の選択が必要であると考えました。

昨年、大学で専攻医として過ごすなかで、実際にSJS症例を経験する機会もあり、眼瞼異常が眼表面の炎症にかわり、眼瞼の管理が治療に重要であることを実感しました。臨床研究の経験はほとんどなく、どのようにデー

タ収集を行い解析をするのか、右も左もわからない状態でしたが、外園千恵教授、渡辺彰英先生にお忙しいなか丁寧にご指導いただき、形にすることができました。心より感謝申し上げます。大学で臨床を学びながら、データ収集を行うのは忙しい日々でしたが、研究を通して、私自身大変勉強になりました。恵まれた環境のなかでこのような研究、発表をすることができ、ありがたく思います。

まだまだ眼科医として未熟な身ではございますが、今回の受賞を励みに、探究心をもって、さらに修練して参りたいと存じます。今後とも御指導、御鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



角膜の勉強会にて

日本角膜学会 会則

第1章 名称・事務局

- 第1条 本会は日本角膜学会(Japan Cornea Society)と称する。
第2条 本会の事務局は、〒567-0047 茨木市美穂ヶ丘3-6
山本ビル302号室日本眼科紀要会内に置く。

第2章 目的および事業

- 第3条 本会は角膜・眼表面に関する基礎的、臨床的研究を通して、これに関わる疾患の診断と治療の発展に資することを目的とする。
第4条 本会は第3条の目的を遂行するために次の事業を行う。
1) 学術集会の開催
評議員会で会長を指名し、その会長が年1回の学術集会(日本角膜学会総会)を日本角膜移植学会と併催する。
2) 学会誌の発行
年1回発行する。
3) 日本アイバンク協会、日本失明予防協会などの関係諸団体と協力し、活動に関係した講習会、研究、社会貢献(市民公開講座)を開催する。
4) その他、本会の目的に沿った事業を行う。
5) 倫理規定と利益相反(COI)を決める。

第3章 会員

- 第5条 会員は角膜・眼表面の研究に従事する者およびこれに準ずる者で、第6条の所定の手続きを完了したものとす。
第6条 本会に入会を希望する者は規定の申込用紙に必要事項を記入し、会費をそえて事務局に申込み、理事会の承認を受けることとする。
第7条 退会を希望する者は退会届けを事務局に提出しなければならない。ただし、3年以上会費払い込みのない者は自動退会とする。また、本会の名誉を著しく傷つける行為のあった者は理事会の議決を経て除名することができる。
第8条 休会を希望する者は休会届けを事務局に提出しなければならない。
第9条 会員は学術集会に参加し研究発表を行うことができる(筆頭発表者は会員に限る)。
第10条 本会に法人会員を置くことができる。法人会員は理事の推薦を受け、評議員会で承認を得なければならない。
第11条 本会に名誉会員を置くことができる。名誉会員は65歳以上の会員で、理事長経験あるいは10年以上の理事歴を有し、本人が承諾した者。名誉会員は評議員会に参加して意見を述べるができるが、議決には関与できない。名誉会員は理事会で推薦を受け、評議員会で承認を得なければならない。

第4章 評議員

- 第12条 本会に30名の評議員を置く。
第13条 評議員は有権者の投票にて立候補者から30名選出される(選挙は2年に1回、無記名、10名~20名連記で行う)。評議員の選挙は評議員会で選出された4名の選挙管理委員によって施行される。評議員の任期は1月1日から翌年の12月31日とする。なお、有権者とは、会員のうち選挙施行年度の会費の支払いが指定された期日までに終了している者とする。

第5章 役員(理事および監事)

- 第14条 理事は選任年の1月1日に65歳未満である者で、評議員の

中から投票によって8名選出される。理事長は理事の投票によって選出される。理事長は理事以外の評議員の中から監事2名を指名する。

- 第15条 理事長は本会の会務を総括する。理事長の任期は1期2年とし、再任は永久に妨げる。また、理事長が任期中、何らかの事故に遭遇し、その職務を遂行できなくなった場合、理事会がその職務を代行する。理事長ならびに役員は次の理事長ならびに役員が決定するまでその職務を代行する。
第16条 理事の職務は、会計、学術、編集、渉外・社会保険、総務、研究、記録の7分野で、各理事が各々の分野の責任者となり、理事長が総括する。
第17条 役員は任期は、3月1日から翌々年の2月末日までの2年とし再任を妨げないが、連続2期を超えて重任することはできない。
第18条 役員に欠員が生じた場合は、投票結果の次点者を充てる(任期は前任者の任期の残りを充てる)。
第19条 役員、評議員は無給とする。

第6章 会議

- 第20条 会議は総会、評議員会、理事会とし、理事長がこれらを招集し、その議長を務める。また、理事会には、役員その他、当年度および次年度の会長が出席する。
第21条 総会、評議員会、理事会は年1回開催されるが、理事長は必要に応じて臨時に総会、評議員会、理事会を招集することができる。
第22条 理事会は本会の運営方針に関する重要事項について立案し、評議員会に提案するとともに、評議員会での決定事項を実行する。
第23条 評議員会は理事会での提案事項を協議し、決定する。
第24条 総会では、理事長が理事会および評議員会での決定事項を報告する。
第25条 評議員会は構成員数の2/3の出席をもって成立する(委任状を認める)。
第26条 評議員会の議事は実出席者の過半数をもって可決される。
第27条 監事は年1回、会計監査を行い、評議員会にて報告する。

第7章 会費

- 第28条 本会の運営経費は会員の会費、法人会員の会費その他をもって行う。但し非営利的に運営されねばならない。
第29条 本会の会計年度は毎年1月1日より12月31日までとする。

付 則

- 第1条 本会則は1995年1月1日より発効実施される。
第2条 本会則は評議員会実出席者の2/3以上の同意により変更できる。
第3条 本会の会員の年会費は年額5,000円とする。法人会員の年会費は年額50,000円とする。
第4条 学術集会の会費は当該会長によって決定される。
第5条 本会の会員の年会費を年額10,000円に変更する。
(1996年2月16日改訂)
(1999年2月12日改訂)
(2010年2月11日改訂)
(2012年2月23日改訂)
(2015年4月9日改訂)
(2016年2月18日改訂)
(2018年2月15日改訂)

2022年日本角膜学会理事会議事録

開催日時:2022年2月9日(水)17:30~19:00

場 所: WEB

出席者: 天野史郎、井上幸次、大鹿哲郎、小泉範子、島崎 潤、西田幸二、
山上 聡、山田昌和 各理事、 外園千恵、堀 裕一 両監事
オブザーバー:小林 顕
事務局 三宅啓子 計12名

議 長:山田昌和理事長

議 題:

1. 報告事項

1. 会員の動静 山田理事長
1,178名(2022年1月31日現在)、休会者10名
本会員 1,178名(2021年1月 1,167名 11名増)
(医師 1,110名 医師以外 68名)
法人会員 19社(2021年1月 増減なし)

2. 2021年度会計報告 井上理事
歳入:年会費が少なかった。未払いの会員が多くなった。
2年くらい現地で行っていないためではないか。
寄付金は昨年の角膜カンファレンスからのものである。
利息が多いのは、定額貯金が10年の満期となったためである。
歳出:担当校へ補助したが、戻ってきた。
調査研究費は三つとも始動しているが、支出は予算より少なかった。
学術奨励賞は2020年2名、2021年3名の計5名に渡したため多くなった。コロナ禍のため会議費は少なかった。旅費は出かかなかったため0円である。
相対的に支出が少なかったため、次年度繰越金が増えた。
外園監事・堀監事から帳簿の記載、証拠書類の保存、管理は適切であり、決算の金額など正確であることを認めた、との発言があった。

3. 第19回学術奨励賞について 西田理事
2021年12月9日(木) WEBにて選考委員会開催
(西田幸二委員長、木下 茂、澤 充、坪田一男、西田輝夫、山口達夫5
委員、事務局三宅啓子、欠席:田川義継)を開催した。
応募者3名を慎重に選考し、下記の1名に決定した。
受賞者
・小野 喬(東京大学)
「前眼部疾患と手術後における角膜の長期的な構造変化」

4. 角膜疾患研究支援プログラム2021 西田理事
ノバルティスファーマより600万円研究費をもらった。選考を理事全員で行い、以下の3名を選出し、研究費として200万円ずつ渡した。
末岡健太郎(広島大学)
「光線力学的抗微生物科学療法(PACT)を用いた新規角膜感染症治療の確立」
住岡孝吉(和歌山医科大学)
「細胞膜カチオンチャンネルTRPM2を標的として角膜アルカリ外傷後の線維瘢痕化に対する新規治療戦略の確立」
平山雅敏(東京歯科大学市川総合病院)
「将来のin vivo reprogrammingを見据えた眼上皮オルガノイドからの涙腺分化を決定する転写因子発現ネットワークの同定」

5. 日本角膜学会優秀ポスター賞 西田理事
昨年同様、第一次審査は評議員を3組に分けて行う。
第二次審査は評議員全員で行う。評議員に協力を要請する。

6. 角膜カンファレンス2021 学会報告 山田理事長(白石 敦会長)
2021年2月11日(木・祝)~13日(土) ライブ配信
(オンデマンド2月28日(日)~3月11日(木))
参加登録者 1,224名
特別講演はノーベル賞受賞者の大隅良典先生で、講演は若い先生方のリサーチマインドを刺激した良い内容であった。
シンポジウム2題、学術奨励賞が2020年度3名、2021年度2名、一般演題が少し少なかった。
残金を寄付してもらった。

7. 角膜カンファレンス2022 学会について 小林 顕会長
名称:第46回日本角膜学会総会・第38回日本角膜移植学会
日時:2022年2月10日(木)~12日(土)
会場:石川県立音楽堂、ANA クラウンプラザホテル金沢
会長:小林 顕(金沢大学)
事前登録は731名、追加登録で964名であった。明日以降1,000名は超えるのではないかと。運営的には大丈夫だと思う。アスレチックは中止して懇親会も中止した。プログラムはそのままである。オンデマンドの日程を1週間ほど延長した。パイプオルガンの演奏もオンデマンドで配信する。

8. 角膜カンファレンス2023 学会について 山田昌和会長
名称:第47回日本角膜学会総会・第39回日本角膜移植学会
日時:2023年2月9日(木)~11日(土)
会場:パシフィコ横浜
会長:山田昌和(杏林大学)
一般口演を重複して2列で行って多く採用したい。今年10月から新専門医制度の単位制度が変わる。シンポジウム、教育セミナーを行う予定である。アスレチックは行わないが、懇親会は開催したいと思う(横浜湾クルーズ)。できればオンデマンドなしでライブ感を大事に行いたい。

9. 角膜カンファレンス2024 学会について 山田理事長(榛村重人会長)
名称:第48回日本角膜学会総会・第40回日本角膜移植学会
日時:2024年2月8日(木)~10日(土)
会場:コングレススクエア羽田(羽田イノベーションシティ)
会長:榛村重人(慶應義塾大学)

10. ウェブサイト関連 山上理事
メールマガジンを送付した(2021年8月号)。
今回の角膜カンファレンス2022に関するメール配信を行った。

11. 各種委員会
・羊膜委員会:澤 充、篠崎尚史、島崎 潤、外園千恵、白石 敦、堀 裕一、西田幸二
角膜学会から4名、角膜移植学会から3名選ぶ。
任期を決めてはどうか。2年で再任は妨げない、など。
・羊膜移植バンクについて
I :京都府立医科大学、愛媛大学、東京歯科大学市川総合病院、富山大学、長崎大学、久留米大学(2022年3月31日まで)
II :けいゆう病院、大阪大学

- ・羊膜移植講習会：
 - 2022年2月12日(土)角膜カンファレンス、オンデマンド
 - 2022年10月16日(日)日本臨床眼科学会
- ・外保連委員：堀 裕一(実務・処置)、小林 颯(手術)、山田昌和(検査)、麻酔担当：なし
- ・次回保険改正に向けて
 - 今日決まったばかり。角膜学会からの要望はすべて通らなかった。
 - 診療報酬全体はプラス改定とのことだが、コロナ対策や、不妊治療にまわっている。5月ごろに次回のアンケートがいく予定。
 - PCRのキットは保険収載されていないので承認されていない。
 - 技術に関するもので、薬品に関するものではない。

12. 各ワーキンググループの進捗状況

- ・コンタクトレンズの不適切な使用による重篤な眼障害合同調査
 - 山田理事長
 - 4学会合同(角膜学会、角膜移植学会、眼感染症学会、コンタクトレンズ学会)のプロジェクトである。
 - 重安千花先生がEye & Contact Lens に論文を掲載した。
- ・角膜AI研究について
 - 大鹿理事
 - 1. スリットランプ写真AI解析プロジェクト
 - 評議員所属の18施設より画像収集。AIの正答率をもっと上げる予定。
 - 外国特許出願支援を受けてPCT特許を各国移行申請予定。
 - 論文執筆を始める。
 - 2. スマートフォン写真AI解析
 - 日本眼腫瘍学会とのプロジェクト。iPhone13proが品薄のため、筑波大学で購入した。
- ・マイボーム腺機能不全診療ガイドライン作成
 - 天野理事
 - 1. ドライアイ研究会との共同事業12名全員でオンラインで集まって今年の夏ごろには仕上げたい。
 - 2. 英語論文を作成するならもう少し期間が必要だと思う。
- ・角膜移植全国調査
 - 島崎理事
 - 水疱性角膜症全国調査という名前で始めたが、角膜移植学会の内皮グループと共同で角膜移植全国調査とすることに決めた。
 - 昨年メンバーを決めて、調査票が完成し、調査内容の詳細が決まった。大阪大学のRedCapを用いるため、格安で行えることになった。会員施設に調査協力の依頼を行った。2022年1月末現在1000を超える症例が来ている。春には調査票を送付して、まとめを来年の角膜カンファレンスで発表できれば、と思っている。

- 13. 日本角膜学会年次報告書の発行
 - 西田理事
 - 1月はじめに発行し、すでに会員・各大学に送付した。

II. 協議事項

- 1. 2022年度予算
 - 井上理事
 - 収入：年会費は減額した。あとは例年どおりである。
 - 支出：調査研究費を300万円にした。内訳は三つのプロジェクトが走っているので希望額を2月中に知らせてもらい、金額を調整する。会議費、学術奨励賞は減額、今年は選挙があるので計上、羊膜移植講習会は減額している。
- 2. 2025年学会について
 - 和歌山医科大学の岡田由香先生が立候補されている。他には立候補者はいない。
 - 高野山で行う予定である。
 - ほかに立候補者はいない。
- 3. ホームページの改訂について
 - 山上理事
 - 角膜を専門とする医師は不要ではないか。アクセス数を調べてあ

まりなければ削除してもよいのではないかと。会員頁の教育コンテンツの位置が下の方に移っている。また内容も古くなっているものがあるので、今一度考える。研究成果の紹介(各プロジェクトの紹介)重安先生にもお願いする。会員は都道府県別に五十音順に変更してはいいか。

4. その他

- ・Ophthalmic Epidemiology 誌について
 - 山田理事長
 - 歴史のある雑誌である。山田がセクションエディターを務めているので、皆さん投稿や査読など協力をお願いしたい。臨床研究やメタアナリシスなど掲載している。
- ・会員のコミュニケーションツールについて
 - 山田理事長
 - 評議員メールをもう少し活用できればよい。ギャザー、スラックなどのツールがある。
- ・今年の8月5日に日本組織移植学会を京都で羊膜移植講習会を行いたい。
 - 外園監事

2022 年日本角膜学会評議員会議事録

開催日時:2022年2月10日(木)7時~8時

場 所:WEB

出席者:

天野史郎、有田玲子、稲富 勉、井上幸次、白井智彦、
内尾英一、江口 洋、大鹿哲郎、神谷和孝、小泉範子、高 静花、
小林 顕、雑賀司珠也、佐々木香る、島崎 潤、白石 敦、
榛村重人、鈴木 崇、相馬剛至、外園千恵、近間泰一郎、田 聖花、
西田幸二、堀 裕一、前田直之、宮田和典、山上 聡、山田昌和、
横井則彦、渡辺 仁

欠 席 者:坪田一男

名誉会員:木下 茂、西田輝夫

事務局 井上雅映、三宅啓子 計34名

議 長:山田昌和理事長

議 題:

I. 報告事項

1.~5.までは理事会と同じ

6. 角膜カンファランス2021学会報告 白石 敦会長
理事会と同じ
大隅財団に100万円寄付した。

7. は理事会と同じ

8. 角膜カンファランス2023 学会について 山田昌和会長
今年の10月から始まる新専門医制度の単位取得を考慮する。一般
口演を重視して2列で行って多く採用したい。アスレチックは行
わない予定で、シンポジウム、教育セミナーを行う予定である。

9. 角膜カンファランス2024 学会について 榛村重人会長
羽田空港のすぐそばでアクセスはよいと思う。

10. は理事会と同じ

11. 各種委員会
理事会と同じ
・外保連委員 堀委員
次回保険改正に向けて
昨日決まったのだが、角膜学会からの要望は通らなかった。コロ
ナ関連、不妊治療に比重がおかれているようだ。

12. 13. は理事会と同様

II. 協議事項

1. 2022年度予算 井上理事
評議員からの異論、意見はなく、認められた。

2. 2025年学会について
和歌山医科大学の岡田由香先生が立候補されている。高野山で行
う予定である。

他には立候補者はいない。

評議員からの異論、意見はなく、認められた。

3. ホームページの改訂について 山上理事
角膜を専門とする医師は不要ではないか。
会員頁の教育コンテンツの内容も古いものがあるので今一度考え
る。
研究成果の紹介(各プロジェクトの紹介)
会員は都道府県別に五十音順に変更してはいかがか。

4. その他

・ Ophthalmic Epidemiology 誌について 山田理事長
山田がセクションエディターを務めている。臨床研究も掲載し
ているので皆さん投稿してほしい。査読もお願いしたら引き受
けてほしい。

・ 会員のコミュニケーションツールについて 山田理事長
具体的な手段、方法について考慮する。

・ 今年の8月5日に京都の日本組織移植学会で羊膜移植講習会を行
いたい。 外園監事

2021年歳入歳出決算報告書
[自2021年1月1日至2021年12月31日]

歳入		単位(円)	
科目	予算額	歳入額	予算に比し増減
年会費	11,500,000	10,550,000	-950,000
法人会員会費	950,000	950,000	0
H P 広告料	800,000	800,000	0
雑収入	20,000	0	-20,000
寄付金	0	1,283,601	+1,283,601
利息	1,000	49,748	+48,748
歳入小計	13,271,000	13,633,349	+362,349
前年度繰越金	30,994,095	30,994,095	0
歳入合計	44,265,095	44,627,444	+362,349

歳出		単位(円)	
科目	予算額	歳出額	予算に比し増減
担当校へ補助	2,000,000	0	-2,000,000
調査研究費	2,000,000	1,418,288	-581,712
AI多施設プロジェクト研究		918,288	
ドライアイ研究会		500,000	
外保連会費	400,000	400,000	0
印刷費	900,000	960,080	+60,080
会議費	400,000	217,800	-182,200
学術奨励賞	500,000	1,264,816	+764,816
消耗品費	200,000	186,979	-13,021
通信・発送費	300,000	565,615	+265,615
旅費	200,000	0	-200,000
雑費	200,000	193,403	-6,597
事務委託費	1,836,000	1,836,000	0
選挙関係費用	0	0	0
会計監査料	100,000	100,000	0
H P 経費	1,359,600	1,359,600	0
羊膜移植講習会	700,000	0	-700,000
予備費	400,000	0	-400,000
支出小計	11,495,600	8,502,581	-2,993,019
次年度繰越金	32,769,495	36,124,863	+3,355,368
支出合計	44,265,095	44,627,444	+362,349

2022年度予算案

収入		単位(円)	
科目	2021年度 予算額	2022年度 予算額	予算に比し 増減
年会費	11,500,000	10,600,000	-900,000
法人会員会費	950,000	950,000	0
H P 広告料	800,000	800,000	0
雑収入	20,000	20,000	0
利息	1,000	1,000	0
収入小計	13,271,000	12,371,000	-900,000
前年度繰越金	36,124,863	36,124,863	0
収入合計	49,395,863	48,495,863	-900,000

支出		単位(円)	
科目	2021年度 予算額	2022年度 予算額	差額
担当校へ補助	2,000,000	2,000,000	0
調査研究費	2,000,000	3,000,000	+1,000,000
外保連会費	400,000	400,000	0
印刷費	900,000	950,000	+50,000
会議費	400,000	300,000	-100,000
学術奨励賞	500,000	400,000	-100,000
消耗品費	200,000	200,000	0
通信・発送費	300,000	300,000	0
旅費	200,000	200,000	0
雑費	200,000	200,000	0
事務委託費	1,836,000	1,836,000	0
選挙関係費用	0	350,000	+350,000
会計監査料	100,000	100,000	0
H P 経費	1,359,600	1,359,600	0
羊膜移植講習会	700,000	500,000	-200,000
予備費	400,000	200,000	-200,000
支出小計	11,495,600	12,295,600	+800,000
次年度繰越金	37,900,263	36,200,263	-1,700,000
支出合計	49,395,863	48,495,863	-900,000

